

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		観光名所（従業員）	来客数の動き	・7～8月の台風や長雨の影響で、観光目的の1つであるボートに乗ることが、ほとんどかえられなかったにもかかわらず、それでも多くの客が来訪している。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・7月の長梅雨の反動と消費税引上げ前の需要で、若干上向き傾向にある。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・8月下旬から、消費税引上げ前の駆け込み需要で、秋冬物を求める購買意欲のある客が見受けられるようになっている。
		家電量販店（店長）	お客様の様子	・客数は減っているものの、消費税引上げを目の前にして、客の購買意欲が非常に高まっている。売上の前年比が客数の前年比を大きく上回る状況にある。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・梅雨明け後の猛暑により季節関連商材が伸び、また、消費税引上げ前の駆け込み需要の影響も出始めている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・見込みの問合せや引き合いは、活発である。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線提供エリアの拡大で販売量が増えている。ただし、短期的な動きであると推測される。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・韓国の観光客で商店街がにぎわっていたが、最近では日韓問題の影響により、商店街が寂しく売上が伸びていない。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・客の話では、例年この時期は売上が落ちるが、今年はひどいという。仲卸店舗での売上も上がらず、営業をやめる人もいる。現状では、将来が不透明で不安である。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当地区の占有率は、近隣の都市と比較して高くないが、飲食店や服飾雑貨テナント等韓国客の比率が比較的高かった店舗では、購入客数、売上に影響が出ており、回復の兆しが見えない。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・リニューアルしたラグジュアリーショップや化粧品などの動きは良いが、日韓関係悪化の影響により、韓国からの訪日外国人が減少し、企業全体の売上低下にもつながっている。また今月は、当地区での花火大会が終了した影響で、浴衣の売上が低迷した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・天候不順のほか、祭り、観光船入港が中止となった影響で土日の来店客数が減少し、またお中元ギフトセンターも低調で推移している。一方、特別招待・夏休みファミリーイベントでの来店、ギフト解体催事・カード催事等の開催で、目的買いの来店が増加している。加えて、カードポイント交換キャンペーン復活の効果により、平日の来店客数が伸びている。交換された金券で購買意欲が高まり、金券の利用率アップが売上伸長率、購買単価に良い影響を与えている。また、店外受注のインターネットギフト・ギフト通販の受注も好調である。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・消費税引上げ前の駆け込み需要の問合せを期待していたものの、駆け込み需要はなく、既に備えに入っている客が多い。また、ポイント等の利用方法が分からない客も多い。
		スーパー（統括者）	お客様の様子	・食品価格の値上げは、小売価格への転嫁が少しずつ進み、消費税引上げを前に買い控え傾向にある。食料品には、消費税引上げがないが、天候不順もあり客の消費意欲は減退しており、チラシに対する反応も盛り上がり欠けている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・夏は天候等の外的要因に左右されることが多く、それを除けば横ばいである。
	コンビニ（経営者）	単価の動き	・長梅雨で、夏の商品であるビール等のアイス飲料が伸び悩み、前年を下回っている。また、雨の影響で客足も鈍く、客単価が大きく下がってしまい、今後も厳しい状況が続く。	
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来店客は、商圏内のホテル客が多く、明らかに韓国客の来店客数が減少しているが、商圏内でビルの建設工事が行われており、建設作業員の増加により、売上高は大きな変動は見られない。	

コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前半は天候が良く、インスタキャンペーンの好調もあり、来店客数増加に寄与したが、お盆辺りから不安定な天候等で、客足が伸びていない。
家電量販店（店員）	販売量の動き	・消費税引上げ前の需要を期待していたが、盛り上がりせず、3か月前と状況は変わっていない。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は来客数はあるが、売上につながらない下見の客が多い。
その他専門店【コーヒー豆】（経営者）	お客様の様子	・新規客の来店が若干あるため、売上は、前年よりやや上向き傾向となっているが、客の動きが、前年とほぼ変わらない状態である。
その他専門店【ガソリンスタンド】（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、高止まりからやや下げの傾向となっている。8月の暑さが厳しかった影響もあり、8月の燃料油の販売量は微増である。カーケア商品の販売は、計画どおりである。
その他小売の動向を把握できる者【ショッピングセンター】（支配人）	販売量の動き	・売上は、全館客数の増加により、やや回復基調にあるものの、景気動向としては改善しているとはいえにくい状況である。春先から継続して、映画業界の作品の好調に助けられているが、物販系テナントについては、明暗がはっきりと分かれており楽観視はできない。今年の九州エリアは梅雨入りが遅く、気温の上下変動が大きかったことも、季節商材を売る物販系テナントにはマイナス要因となっている。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・天候の影響もあり、予約・集客が少ない状態である。
観光型ホテル（総務）	来客数の動き	・夏休み期間中のレストラン来客数は、4～5月の大型連休期間中に比べ、多くはない。宿泊客はやや増加しているが、訪日外国人は緩やかに減少している。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・韓国人観光客が減っており、その分を国内からの客で補っている状態である。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、人の動きは多いが、レンタカー利用が多く、タクシー利用は夜のみになっている。
タクシー運転手	来客数の動き	・外国人観光客が減少しているものの、8月の前半には猛暑、後半は天候不順で雨が続き、売上は予想以上に好調である。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・業界的には、夏場は販売数が鈍化する傾向にあり、今年も伸び悩んでいる。
美容室（経営者）	お客様の様子	・熊本地震からもうすぐ3年になるが、景気が悪い話ばかりで、上向き状態ではない。
美容室（経営者）	販売量の動き	・2～3か月前の数字と比較しても景気の回復はしておらず、美容業界では、横ばいか、やや下降気味である。ファッション業界においても夏物の売上がなく、秋口に期待をしている。
美容室（店長）	来客数の動き	・今月は、お盆休みや定休日で休みが多かったが、来店客数には変化がない。
その他サービスの動向を把握できる者【介護サービス】（管理担当）	お客様の様子	・台風や豪雨により、サービスキャンセルが多く、全体的な売上が減少した。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・全国お盆前後の猛暑やその後の長雨により、客の出足が鈍く、来場数が減少したことが影響し、成約までに至っていない。来場者がなければ、販売につながらない。
商店街（代表者）	お客様の様子	・夏物半額処分を行っているが、例年以上に売行きが悪い。悪天候や年金2000万円問題、10月からの消費税引上げを前に、消費を極力控える客が多い。
商店街（代表者）	来客数の動き	・例年8月は消費が低迷する上、天候が不順であるため、来客数が減少している。
商店街（代表者）	販売量の動き	・年金受給者の購買力が年々落ちている。状況が良くなる要素がなく、年金生活者で収入が減少している人を対象とした商売をしているため、非常に厳しい状況である。
商店街（代表者）	来客数の動き	・休日が多く営業日数が減少し、加えて雨が多かったため、来客数が大幅に減少している。
一般小売店【生花】（経営者）	来客数の動き	・8月はイベントが少なく、加えて最近の大雨で客足が鈍っている。

一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・梅雨のように雨が多く、来客数は減少している。消費税引上げ前の買い増しではなく、買い控えが多い。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・北部九州豪雨など天候要因もあるが、8月上旬のお中元ギフトの数字が、前年を大きく下回る結果となっている。競合上の問題ではなく、どの店舗も同じ状況である。消費税引上げ前の駆け込み需要が始まってもよい時期であるが、その兆候は僅かで、大きな動きはない。衣料品等は、非常に厳しい状態が継続している。
百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・日韓情勢を受け、インバウンド消費の割合が大きい服飾雑貨や化粧品がマイナスになっている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・台風による臨時休業や長雨等の天候不順が続き、入店客数や売上が前年を下回っている。特に衣料品は在庫が残っており、売上が伸びず、厳しい状態が続いている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・近隣への競合店の出店や、天候不順で雨が多かった影響で、来店客数は前年比97%と厳しくなっている。客単価は前年の101%となっているものの、天候に左右され、またお盆商戦も思うようにはいかなかった。ギフト関係は105%で推移しているが、やはり天候で来店客数が左右される。
スーパー（店長）	販売量の動き	・販売点数の減少により売上が苦戦している。客数の減少とともに、売上の非常に厳しい状況が続いている。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・消費税引上げや年金問題等の影響で、消費にマイナス心理が働きやすく、加えて長雨や気温低下等により、夏物商材の売行きが悪くなっている。また当店営業エリア内で、大手資本の新規出店があり、来客数減少も続いている。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・前年の猛暑とは異なり、今年は梅雨明けの遅れや長雨等天候の影響が大きく、ある程度の販売量があったお盆期間中を除くと、スイカやそうめん、アイス等の動きが悪い。長いお盆休みと消費税引上げにより、商品に対する購入意識も厳しくなっている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・例年と比較すると、非常に雨が長く、気温も上がらないため、苦戦している。傘等の販売により、雑貨の売上が前年より増加し、また客単価アップの傾向は続いているものの、それを上回る客数減少で、全体を押し上げるまでには至らない。一方、おでんを通年で販売していることは、好材料となっている。
コンビニ（経営者）	来客数の動き	・8月上旬の冷夏等の天候不順、及び訪日外国人の減少により、客数が減少している。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・前年と比較して、夏も短く、気温も低く、売上が伸びていない。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・前月から目的の買物以外で、プラス1品が減少している。なるべく少ない支払をする客が増加している。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客の様子から、景気が少し下降気味である。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来街者がほとんどないため、来店客も余りない。
衣料品専門店（総務担当）	競争相手の様子	・全般的な不況に加え、衣料品業界は、百貨店の衣料品売上の大幅な減少にも表れているように、とりわけ景気が悪化している。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・残暑に期待していたが、逆に例年より秋の訪れが早いいため、この天候不順が大きく影響し、動きが若干悪くなっている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・消費税引上げ前の駆け込み需要を期待していたが、新車販売には全く実感が無い。中古車販売は、まだ現行消費税率での登録が可能のため、販売に力を入れていく。
その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	来客数の動き	・日韓情勢の不安によるインバウンド需要の低迷により、下降気味である。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・前年よりも集客数が減少しており、予約状況も悪い。加えて、訪日外国人が確実に少なくなっている。

	スナック（経営者）	来客数の動き	・週末の客数が良くない。8月の連休中が特に振るわず、同業者も好景気感は全く感じられないと危惧している。
	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	販売量の動き	・飲食店への売上が、前年から2%減少している。今年4月以降、前年割れが続いており、加えて天候も影響し、景気は若干悪化している。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・韓国からの訪日が減少している。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・8月は、予想を超える天候不順が続き、景気に悪い影響を与えている。
	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約は、ほぼ前年並みを維持しながらも、7月に引き続き、8月も前年より降水量、降水日が多くキャンセルが相次いでいる。主要道路である県道の道路崩壊も仮復旧に数か月掛かり、入場者数が伸び悩んでいる。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・夏休みで、欠席等が多くなり、売上が減少する。
	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料費や人件費は上昇しているが、仕事の対価は上がっていない。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・展示場来場数と商談数が減少傾向になっており、先の成約数にも影響が出ている。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・長雨により来客数が激減し、売上は前年比25%減少である。
×	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年この時期は、帰省客等で商店街はにぎわうが、徐々に減少している。今月は、台風や長雨の影響で、かなり来街客数が減っている。各店舗は非常に厳しい状況が続いている。
×	百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・前年は、全国うまいもの市を開催し、今年はファッションバーゲンセールが開催したが、全店の3か月前の前年比は101.6%、今月の見通し前年比は95.7%である。7月の前年比98.9%と比較しても悪い状態である。客は、買物に対してシビアになっている。
×	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・当店は、ホテル立地のため、外国からの客が多く、特に韓国人は外国人客の半分以上を占めていたが、このところ利用者数が大きく減少している。また、近隣にドラッグストアがオープンしたことも影響している。
×	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・訪日外国人が激減している。韓国人観光客が減り、売上に影響が出始めている。
×	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月は、個人客の予約が入っているが、会社関係の動きはない。祝日やお盆で休暇が長く、営業日数が短くなったため、飲食店にとっては、厳しいスケジュールになっている。
×	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・燃油サーチャージのアップによる収益圧迫は来月まで続き、日韓問題で韓国旅行のキャンセルが増えている。10月以降は回復の兆しがみえるものの、9月までの伸びは期待できない。
企業動向関連 (九州)	-	-	-
	建設業（社員）	取引先の様子	・官公庁の発注も多くなり、工事を選択している同業者も多くなっている。今後も現在の状態を維持し、多くの発注を期待している。
	通信業（職員）	受注量や販売量	・官庁案件の受注見込みが増えている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注件数、金額共に伸びている。
	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・7月の売上は、計画に若干届かなかったものの、値上げや生産の効率化により、利益は計画どおりとなっている。8月は現時点で95%の動きとなり、売上は対計画を下回ると予想される。8月前半の動きは、外食、スーパーマーケット全て良かったが、後半は少し鈍くなっている。大手冷食メーカーの動きは、価格的に厳しいものを要求されている。供給過剰が影響している。

家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・景気感は受注額、見積量、荷動き等総体的に小康状態である。背景として、10月からの消費税上げや日韓関係、株安、円高、そして米国大統領の強硬な二国間交渉等様々な不安要素が渦巻いている。
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ほとんど貿易関係の製品への納入であるため、米中貿易摩擦問題に影響され、在庫調整が2～3か月続いている状態である。
電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・受注量に余り変化が見られない。
輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・この時期は、年末に向けて必然的に在庫量が多くなるが、消費税上げ前の影響もあり、どの寄託者も例年より在庫数量が多い。ただ、それが景気のよしあしの指標になるかは、今の段階では分からない。
通信業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・営業担当者との情報交換では、取引先の様子に特段の変化が見られず、消費税上げ前の駆け込み需要についても目立った動きがない。
金融業（従業員）	取引先の様子	・住宅販売は、高水準ながらマンションを中心に売行きが鈍化しており、百貨店やスーパーマーケットの売上も伸び悩んでいる。一方、人手不足を背景に、緩やかながら雇用者所得は増加傾向にある。
金融業（調査担当）	それ以外	・法人向け融資残高は、大・中堅・中小企業共にほぼ横ばいで推移している。総じて地方企業の資金需要は、引き続き一定水準を維持しており、3か月前に比べて大きな変化はない。
金融業（営業担当）	取引先の様子	・中小企業を中心に人材不足である。また、設備投資をする場合にも、建築費の高騰等で手詰まり感があり、売上拡大及び利益創出がうまくいっていないのが現状である。
金融業（得意先担当）	取引先の様子	・個人については、消費税上げ前で、順調に推移しているが、法人からの資金調達は、ほとんどない状況で、景況感は、それほど高くない。
金融業（調査担当）	取引先の様子	・土木や運送関連で、大型車のドライバーが不足しており、数社が協調してドライバーを融通し合うケースもみられる。家庭用耐久財では消費税上げを意識した駆け込み購入の動きが顕在化している。マンション建設は増加しているが、地域差が大きい。
新聞社〔広告〕（担当者）	受注量や販売量の動き	・消費税上げ前であるが、広告申込みの増加等の動きは見えない。
経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・異業種の交流会での発言では、活発な動きがある状況ではない。
経営コンサルタント（社員）	受注量や販売量の動き	・韓国からの来客が激減している。その売上は、ウイスキーでカバーしているが、影響は大きい。
農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・トマト等の果菜類は過去5年平均で比べても安く、葉菜類や果物は平均よりも高く推移している。
食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節商材の端境期であるため、若干悪くなる。
窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前月と変わらず厳しい状況が続いている。受注関係が前年と比較して悪い。
金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・米中貿易摩擦や日韓問題により、輸出部門での納期延期等の影響が始めている。
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・半導体、自動車関連の製造装置の部品加工の需要が落ち込んでいる。
電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・米中貿易摩擦のあおりを受け、半導体関連は依然重い動きである。後期にかけて、持ち直しの傾向はあるものの、中小企業への影響は、読みが困難な状況である。
その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	取引先の様子	・このところの円高や関税問題等により、減産や販売不振が続いている。
輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・健康食品の受注量が明らかに減少しているが、化粧品等高価格帯は変化がない。機能性食品のトレンドが変わっている影響もあり、衰退気味である。
金融業（営業）	取引先の様子	・製造業では、数か月前まで需要はあるものの、人手不足のため、生産できないという悩みを抱えていたが、今は需要が先細りしている。米中貿易摩擦に起因する世界的な需要減少が根底にある。

	不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・投資用不動産への銀行融資が付かないことが多く、融資が付いても自己資金の投入比率が高い。居住用不動産への融資には、まだ影響が余りない。	
	広告代理店（役員）	取引先の様子	・客に採用関連のサービス提案をしたところ、数社は、既に採用経費を抑制している。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今年の8月は、お盆休みが長く、天候不順で猛暑であったことが、マイナスに作用している。	
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・取引先の景気の良い話や消費税引上げ前の駆け込み需要等は、ほとんど聞かない。不良債権が発生している取引先があり、また、回収業務のアドバイスやスキームを求められることもある。反面、業績好調な企業もあり、各種節税商品を模索している企業もある。少額でも消費税が引き上げられるため、買い控えが出ることを危惧している。	
	×	繊維工業（営業担当）	それ以外	・仕事の受注はあるものの、9月から糸等の資材値上げがあり、工賃と人件費と人数のバランスが悪くなっている。最賃の上昇が経営を大きく圧迫し、今後が懸念される。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村から調査、計画策定、建築設計等の委託業務を受けているが、6月補正予算は該当するものが少なく、期待していた地方創生の総合戦略の業務発注は少ない。総合戦略の発注が、入札によって行われる場合があるが、予算の4割以下で落札する傾向にあり、新規の受注が見込めない状況である。
雇用関連	-	-	-	
(九州)	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・店舗改装や新店開設等の企業もある反面、退職者の後任は、残りの社員で対応する企業もある。新規雇用をする企業よりも、退職者の後任を探す企業が断然多いが、その後任でさえもしない企業も若干見受けられる。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・消費税引上げ前の駆け込み受注等も増加していない。	
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・現在と比較すると、多少の求人数の動きはあるが、景気に直結した上向きな動きはない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・日韓関係の悪化によるインバウンドの減少等はあるが、大規模観光宣伝キャンペーン等もあり、観光客を含め、人出や消費行動は活発であり、好調を維持している。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は、春先から頭打ち傾向であるが、大きな減少はなく、人手不足傾向が解消されていない。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数が、低減傾向である。一方、求職者も減少しており、全体としては横ばいである。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求職者数が若干増加したが、有効求人倍率がいきなり高い水準になっている。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求人数、求職者数共に減少しているが、求職者数がより減少している。3か月前よりも求人倍率は高くなっているものの、景気が良くなっているといえる程度ではない。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・2020年卒業採用の実施状況は、前年より活動比率が低い。求人受理件数も前年度より少なく、減少傾向にある。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・長期求人数の減少がある。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人取扱件数が、前年と比較すると減少傾向にある。背景には採用難により、求人手段の多様化が進んでいることが挙げられる。同業大手が、求人サイトの事業から撤退したり、紙媒体を廃刊したりと、人手不足にはあり得ない減少が発生している。	
	×	-	-	